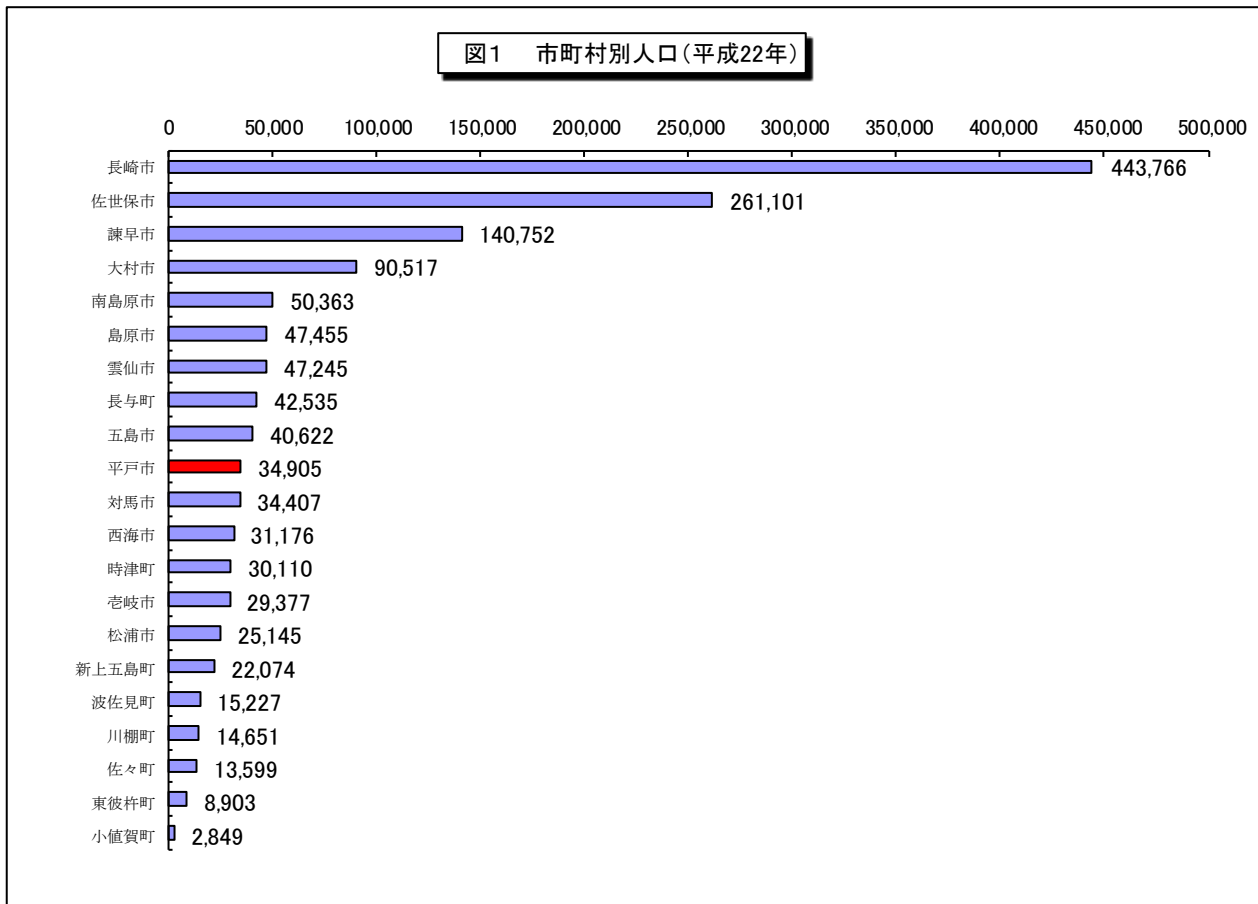
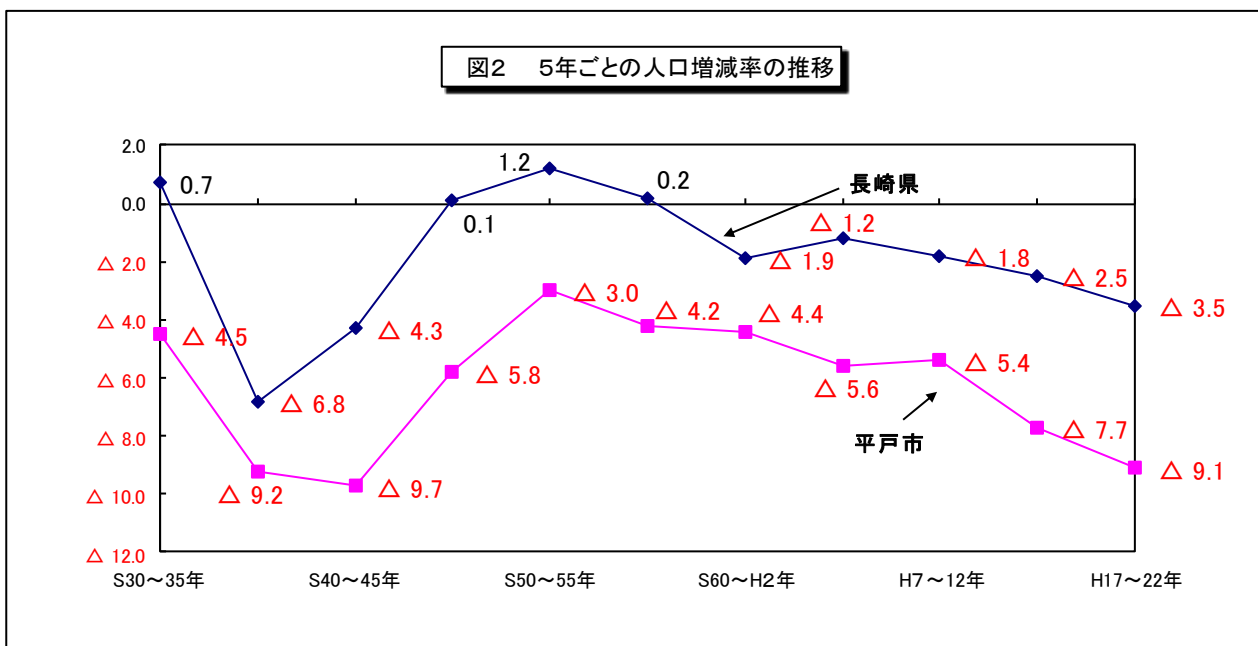


# 1. 人口の規模と推移

平戸市の人口は、34,905人で、その規模は長崎県内21市町村中10位。



平戸市の人口は、平成17年～22年に3,484人、9.1%減少。なおこの間の全国の人口は、0.2%の増加。長崎県の人口は、3.5%減少。

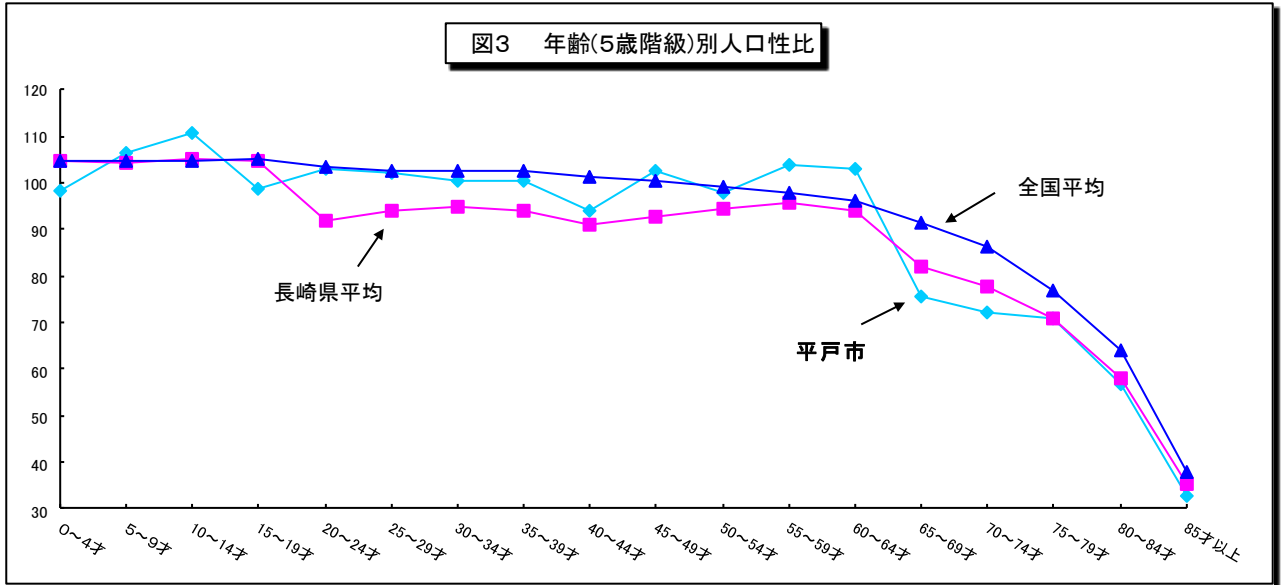


## 2. 人口の基本的・社会的属性

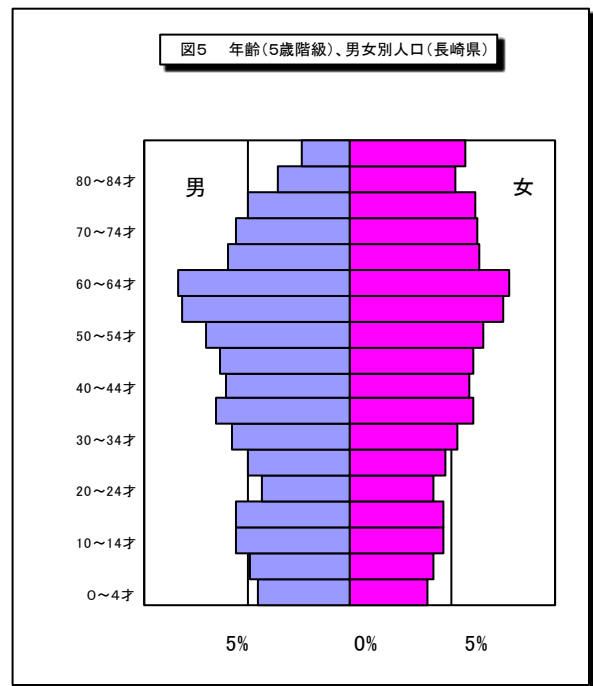
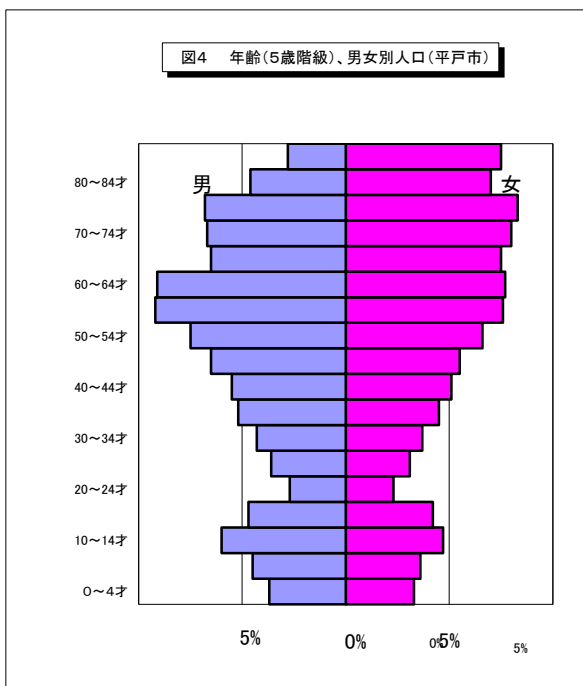
### 2-1 男女、年齢別人口

平戸市の人口を男女別にみると、男子が 16,187 人、女子が 18,718 人で女子が多く、人口性比(女子 100 人に対する男子の数)は 86.5%、全国の人口性比 94.8%、長崎県の人口性比 87.5%を下回る。

年齢階級別にみると、55 歳から 60 歳は高いが全国的に全国平均より低く、特に 65 歳から 70 歳は突出して低く戦後の出生減によるものと考えられる。

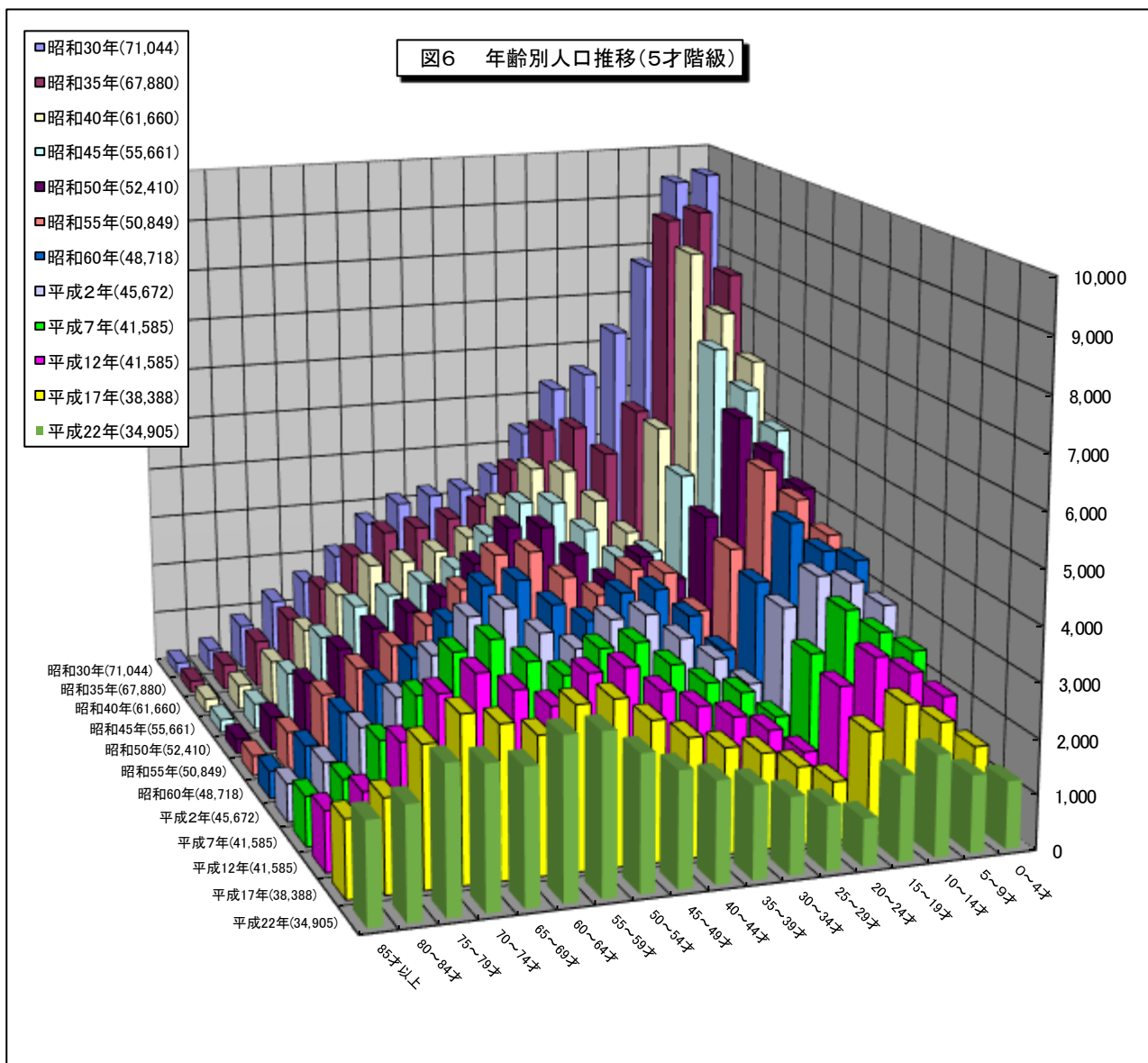


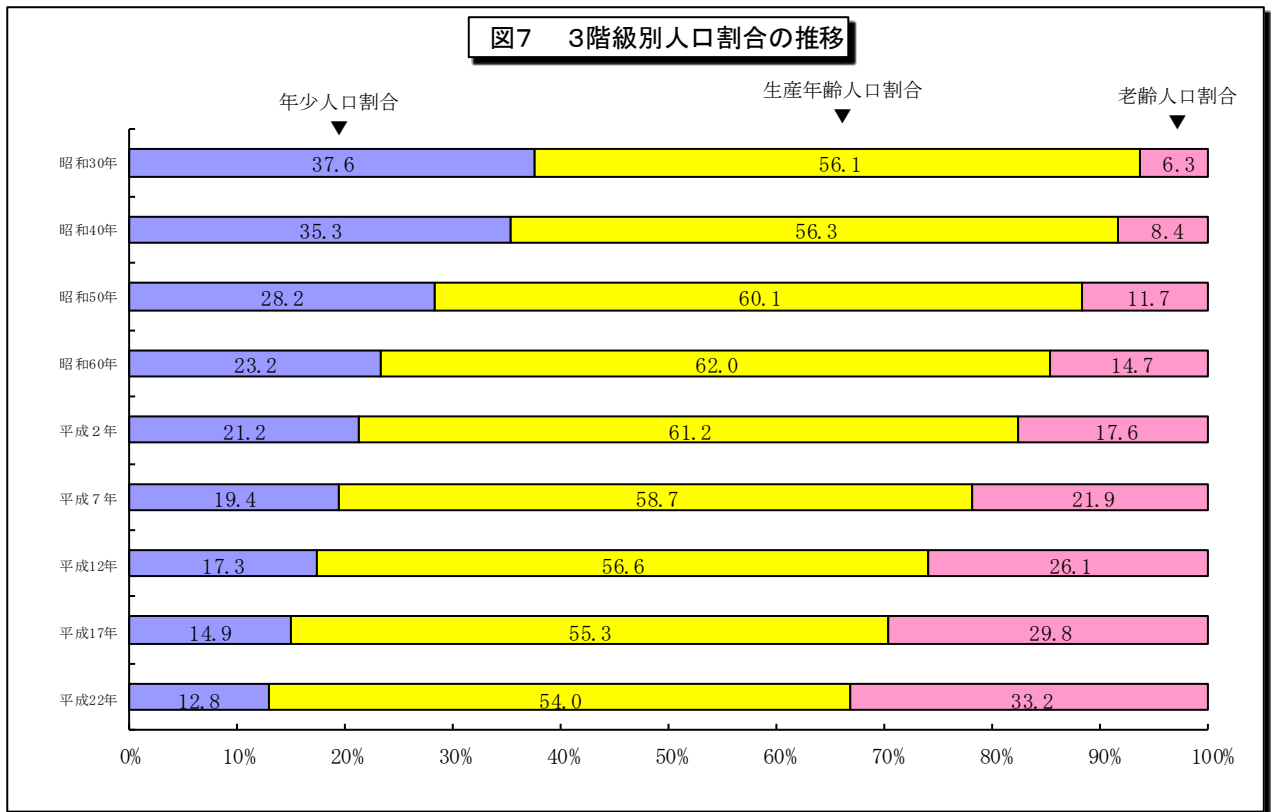
平戸市の人口を年齢(5歳階級)別、男女別にみると、20歳から24歳の人口が極端に少なく、頭でっかちのグラフとなっている。



昭和30年からの5歳階級別人口の推移をしてみると、総人口で36,139人の減少となっている。そのうち年少人口(14歳以下)は22,213人の減少、生産年齢人口(15歳~64歳)は21,028人の減少となっているが、老年人口は逆に7,102人の増加となっている。

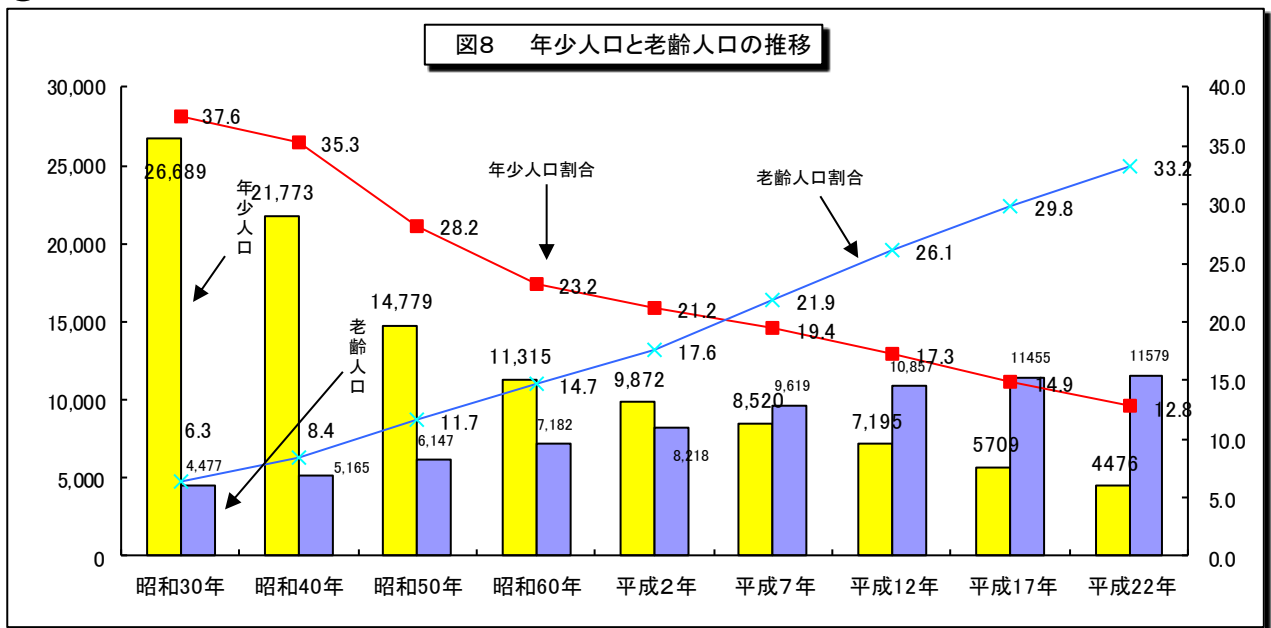
昭和30年からすると、総人口で50.8%減少しており、前回調査時から9.1%の減少となっている。その中でも年少人口の減少は著しく、昭和30年の1世帯当たりの子供の数(14歳以下)は2.0人であったが、平成22年は0.3人となり、少子化が急激に進んでいる。





年令3区分別割合は、0～14歳の年少人口が12.8%、15～64歳の生産年齢人口が54.0%、65歳以上の老年人口が29.8%である。全国平均（13.8%、66.1%、20.2%）県平均（13.6%、60.4%、26.0%）に比べ、老年人口及び年少人口の割合が高い。

また、推移を見ると、年少人口割合の減少と高齢人口割合の増加が続いている。

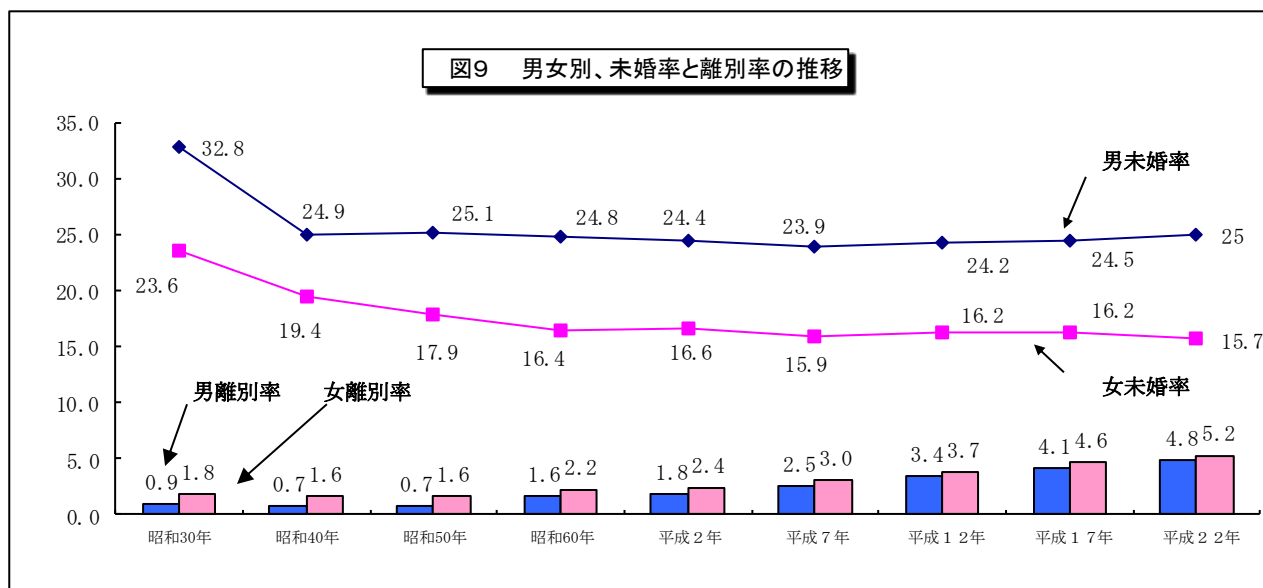


## 2-2 配偶関係

未婚率（15歳以上人口のうち未婚の割合）は男子25.0%、女子15.7%で男女とも県平均（男子27.9%、女子21.6%）全国平均（男子31.3%、女子22.9%）を下回る。

未婚率は男女ともに25歳から29歳では減少しているものの、その他の年齢階層では上昇している。

離別率（15歳以上人口のうち離別の割合）については、男女とも各年齢階級で上昇している。

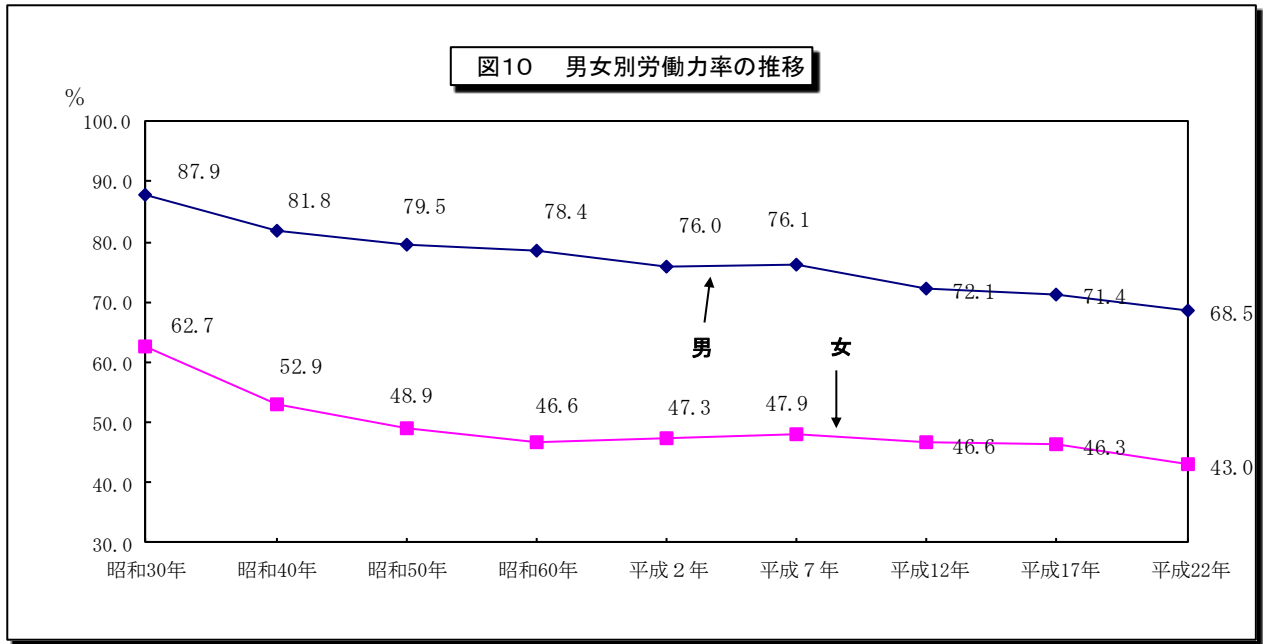


## 3. 人口の経済的属性

### 3-1 労働力状態

労働力率（15歳以上人口のうち労働力人口（就業者と完全失業者の和）の割合）は、男子68.5%、女子43.0%で、男女とも県平均（男子69.0%、女子46.5%）及び全国平均（男子72.1%、女子47.8%）より下回っている。

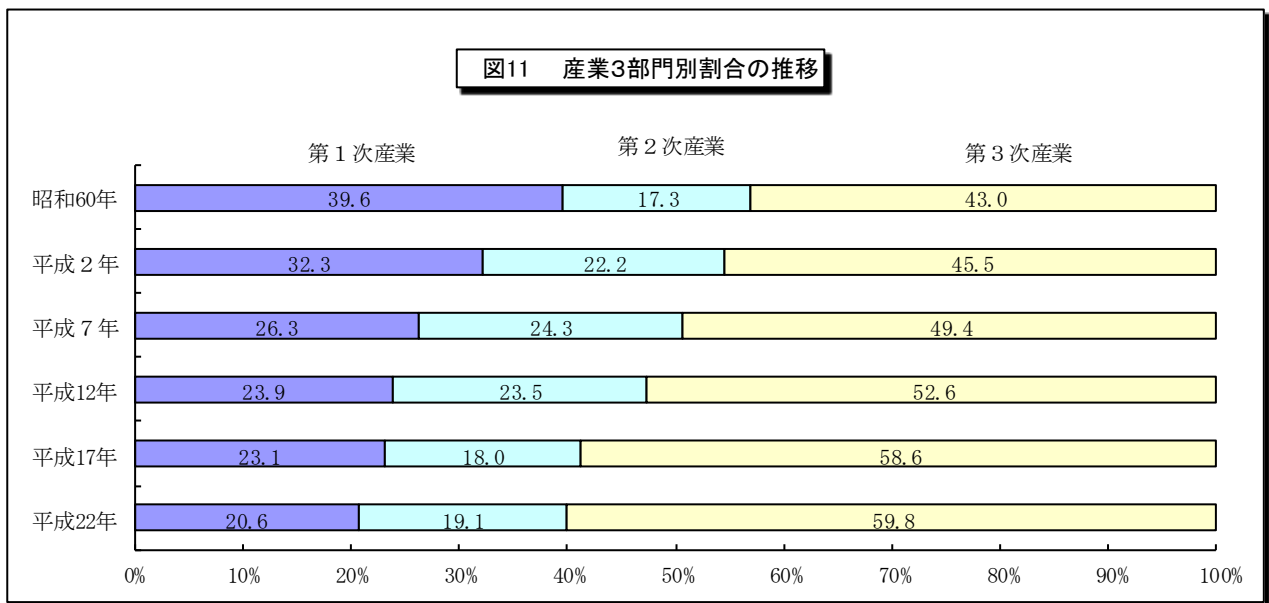
推移を見ると、男女とも昭和30年以降低下を続け、平成2年から平成7年までは、ほぼ横ばい傾向であったが、平成12年の調査にて男子労働力率が前回比△4.0%の大幅減となっており、今回の調査においても、男女ともに前回比△3.0%弱の減少となっている。



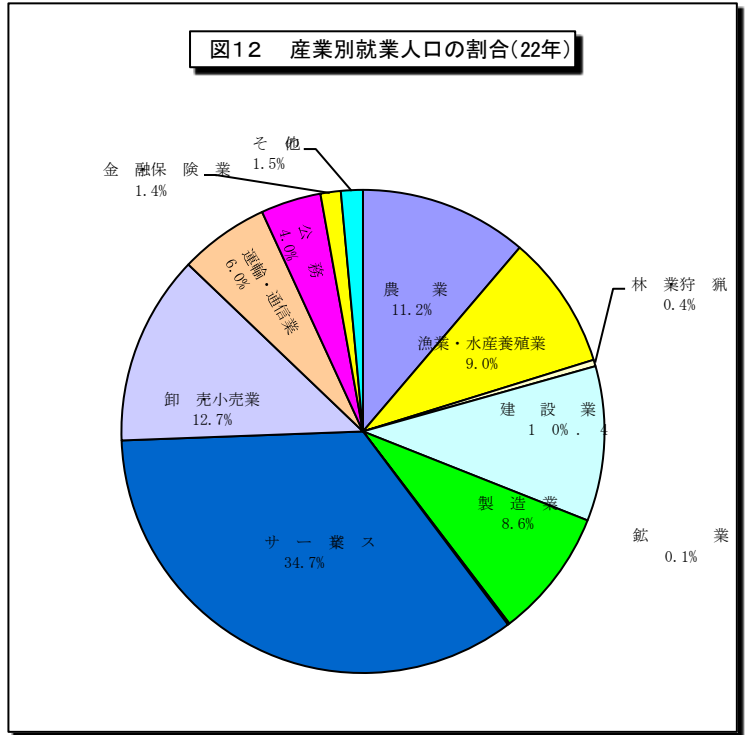
### 3-2 産業

就業者の産業3部門別割合を見ると、第1次産業は20.6%、第2次産業は19.1%、第3次産業は59.8%で県平均（それぞれ7.9%、19.5%、69.2%）及び全国平均（それぞれ4.0%、23.7%、66.5%）に比べ、第1次産業の割合が高く、第3次産業の割合が低い。

推移を見てみると昭和60年調査で39.6%あった第1次産業が平成22年調査では20.6%と半分近くに低下し、第3次産業の割合が突出的な伸びは見られないものの、序々に高くなってきている。

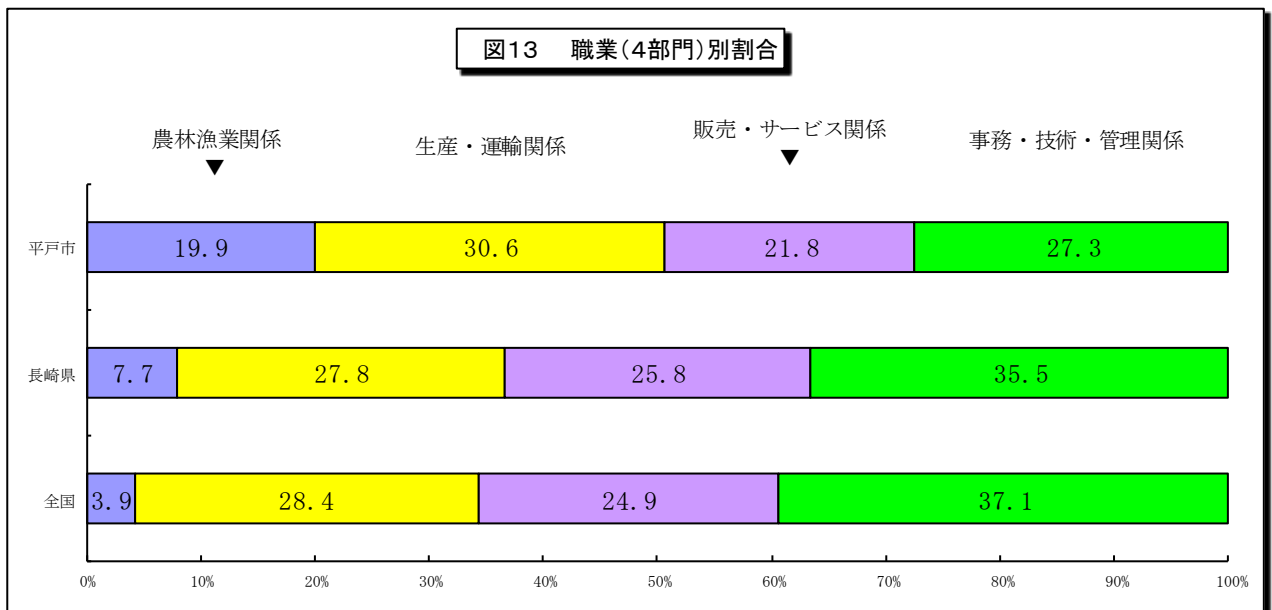


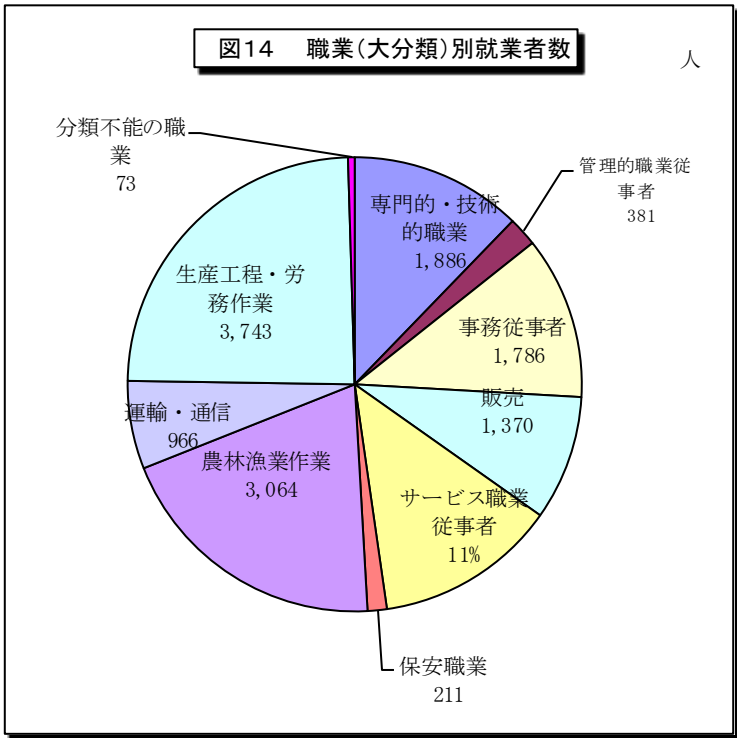
就業者の産業大分類別割合は、「サービス業」が34.7%で最も高く、「卸売・小売業」が12.7%、「農業」が11.2%、「建設業」が10.4%、「漁業」が9.0%と続く。県平均、全国平均に比べ、「農業」（県5.9%、全国3.6%）や、「漁業」（県2.0%、全国0.3%）の割合が高く、「製造業」（市8.6%、県11.2%、全国16.1%）の割合が低い。



### 3-3 職業

就業者の職業4部門別割合は、農林漁業関係職業が19.9%、生産・運輸関係職業が30.6%、販売・サービス関係職業が21.8%、事務・技術・管理関係職業が27.3%で、全国平均、長崎県平均と比較すると、農林漁業関係職業の割合が高く、事務・技術管理関係職業の割合が低い。

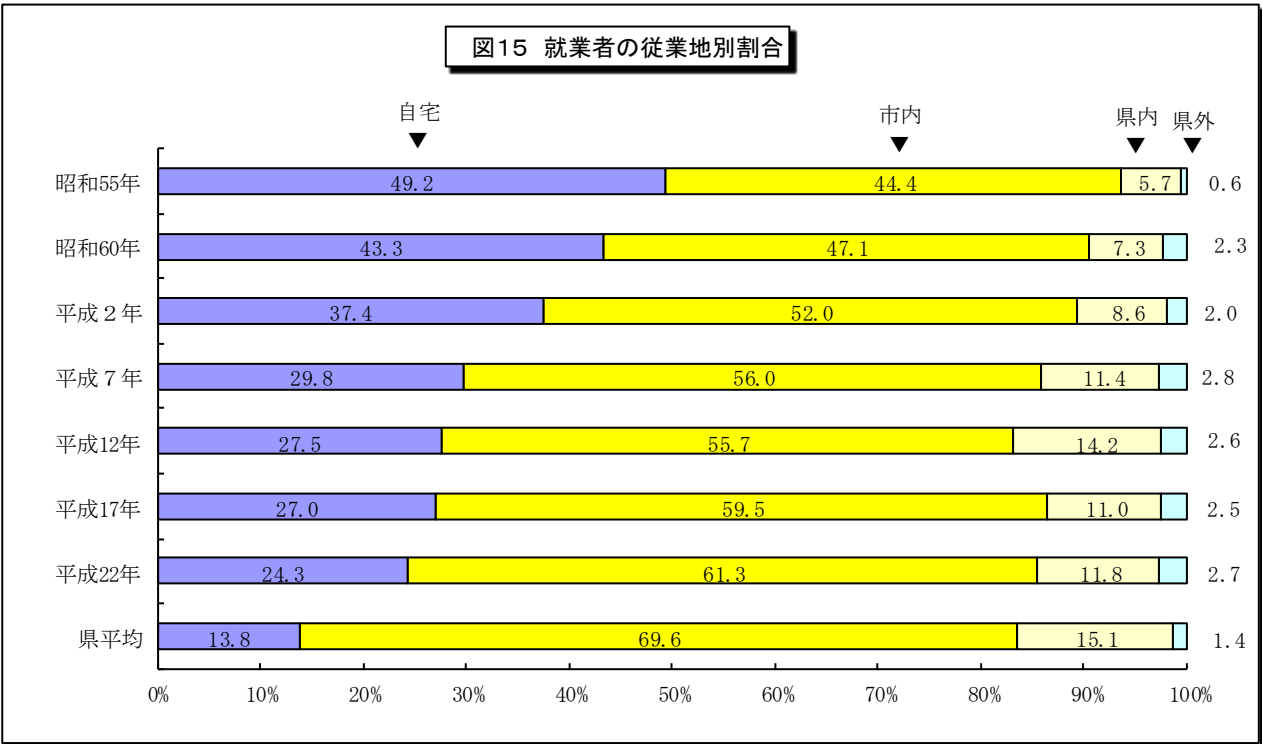




職業大分類別割合をみると、「生産工程・労務作業」の割合が24.3%と最も高く、「農林漁業作業」が19.9%、「サービス職業従事者」が12.9%と続く。全国平均、県平均に比べ「農林漁業作業」(全国3.9%、長崎県7.7%)の割合が高い。

### 3-4 就業者の従業地

就業者を従業地別に見ると、自宅が24.3%、市内が61.3%、県内各市町村が11.8%、県外が2.7%であり、県平均と比較すると自宅の割合が高く、県内各市町村の割合が低い。推移を見てみると、自宅就業が減少し、市内就業が増加している。





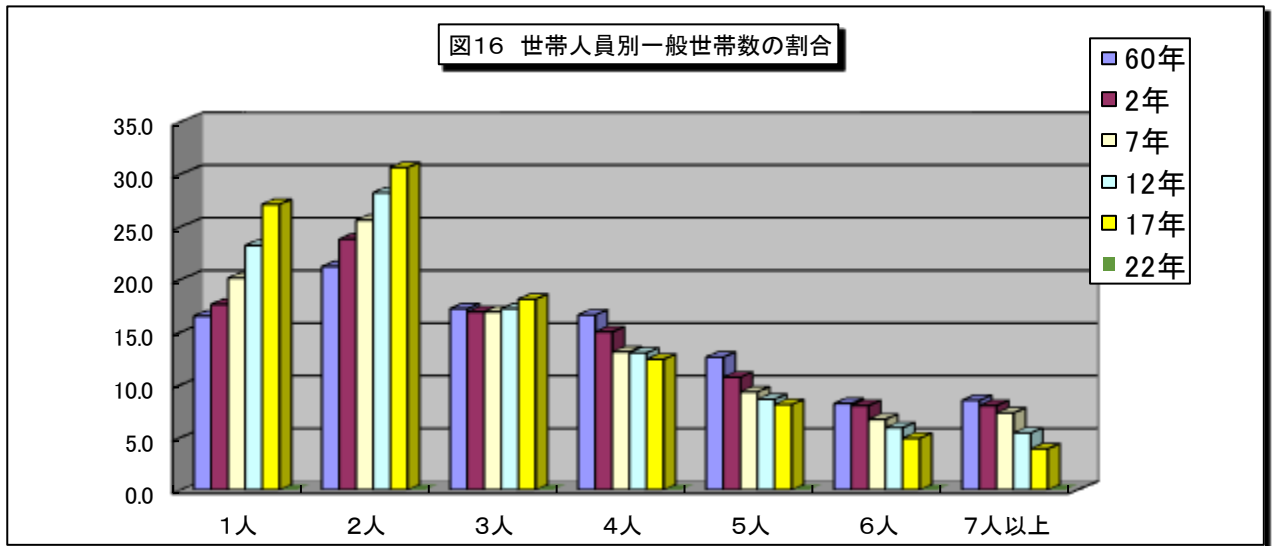
## 4. 世帯

### 4-1 世帯の規模

平戸市における平成 22 年 10 月 1 日現在の一般世帯数は 12,837 世帯、その世帯人員は 33,960 人で、1 世帯当たり人員は 2.65 人。世帯規模の縮小傾向は昭和 30 年以降続いている。

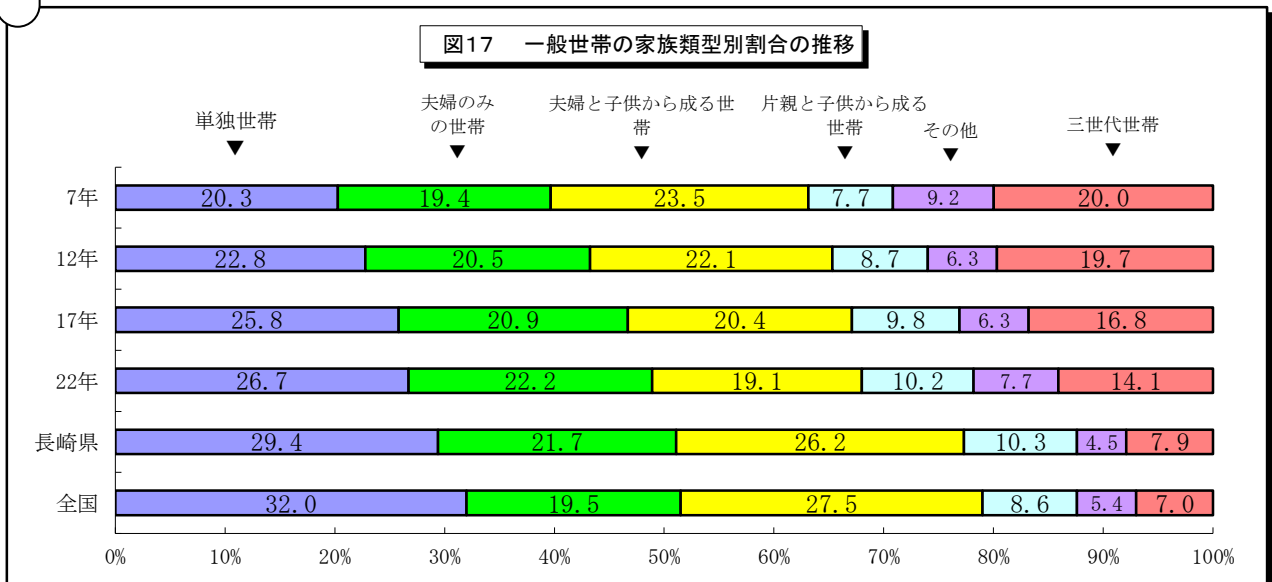
一般世帯の世帯人員別分布は、2 人世帯が 31.1% で最も多く、1 人世帯(26.7%)、3 人世帯(17.8%)、4 人世帯(11.1%)と続く。

1 世帯当たり人員は全国平均(2.42 人)、県平均(2.47 人)に比べ上回っている。



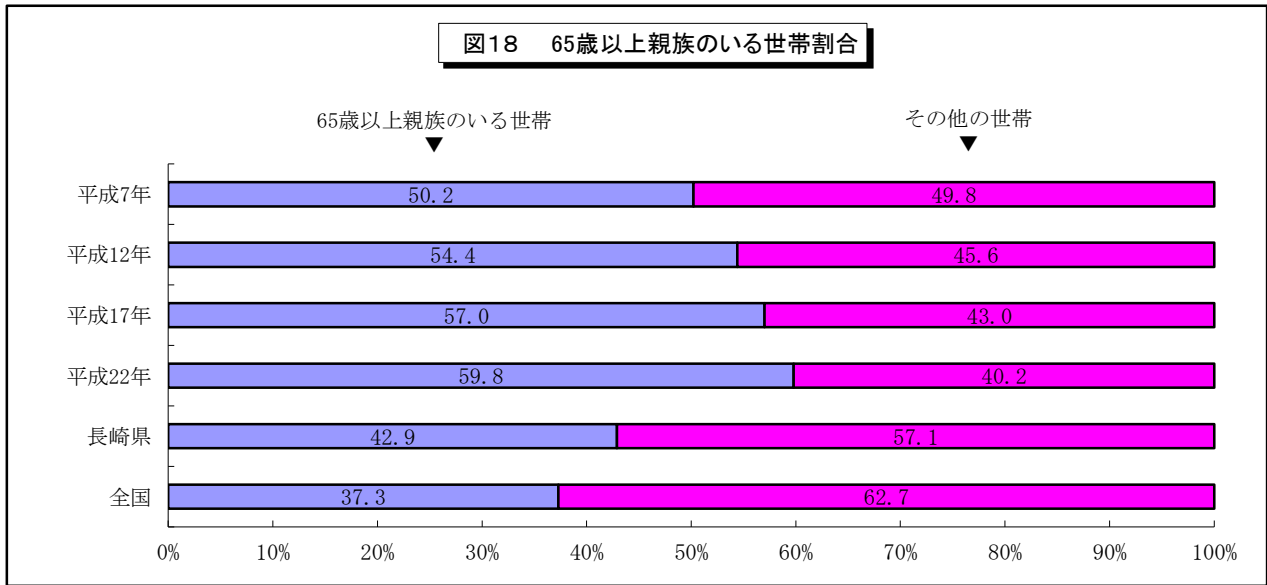
### 4-2 世帯の構造

一般世帯のうち、「単独世帯」が 26.7%、「夫婦のみの世帯」が 22.2%、「夫婦と子供から成る世帯」が 19.1%、「片親と子供から成る世帯」が 10.2%、「三世代世帯」が 14.1% であり、全国・県平均と比べて、「夫婦と子供から成る世帯」が低く、「三世代世帯」が高い。核家族化が全国、県と比較して、さほど進んでいないが、今回の調査ではわずかに減少したものの、緩やかに核家族化が進行していることが分かる。



4-3 高齢者のいる世帯

65歳以上親族のいる一般世帯は7,674世帯で一般世帯総数の59.8%を占め、全国平均(37.3%)、県平均(42.9%)を上回り、また、その推移は毎調査ごとに増加している。



高齢夫婦世帯（夫65歳以上と妻60歳以上の夫婦1組の一般世帯）は1,743世帯、高齢単身世帯は1,907世帯。65歳以上の親族のいる一般世帯は、今回の調査で減少しており、伸び率がマイナスに転じている。

これまで子供等との同居世帯も増加傾向となっていたが、前回の調査から減少しており、伸び率がマイナスに転じている。

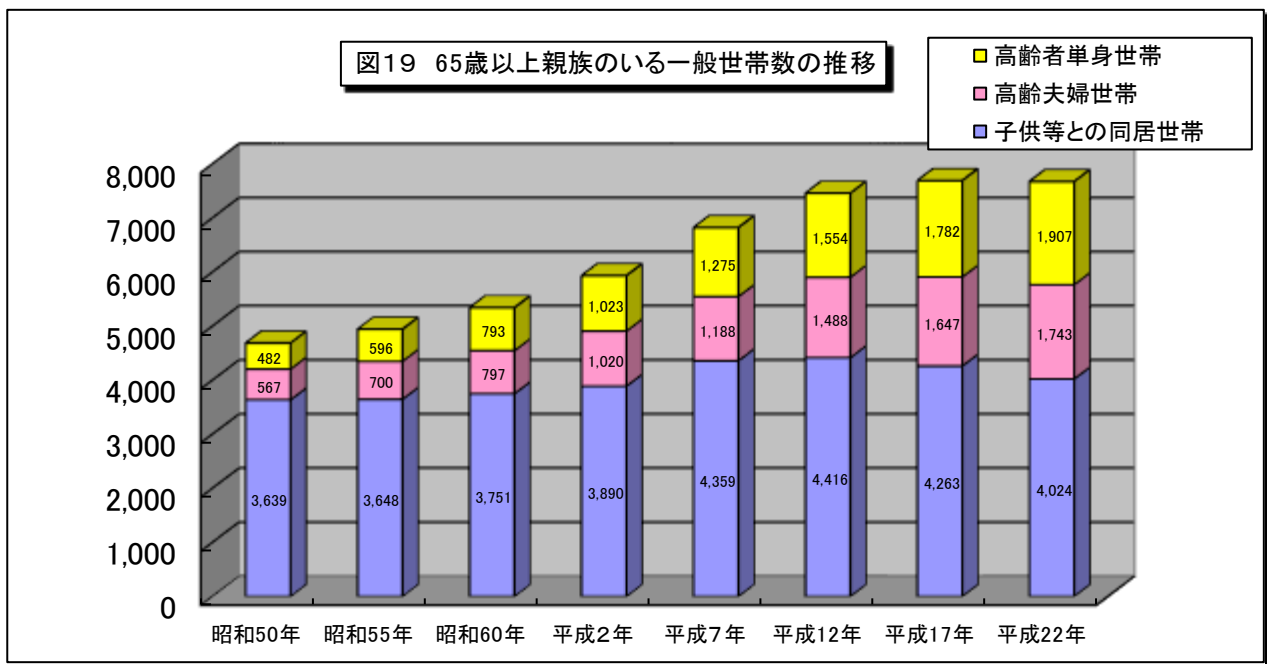
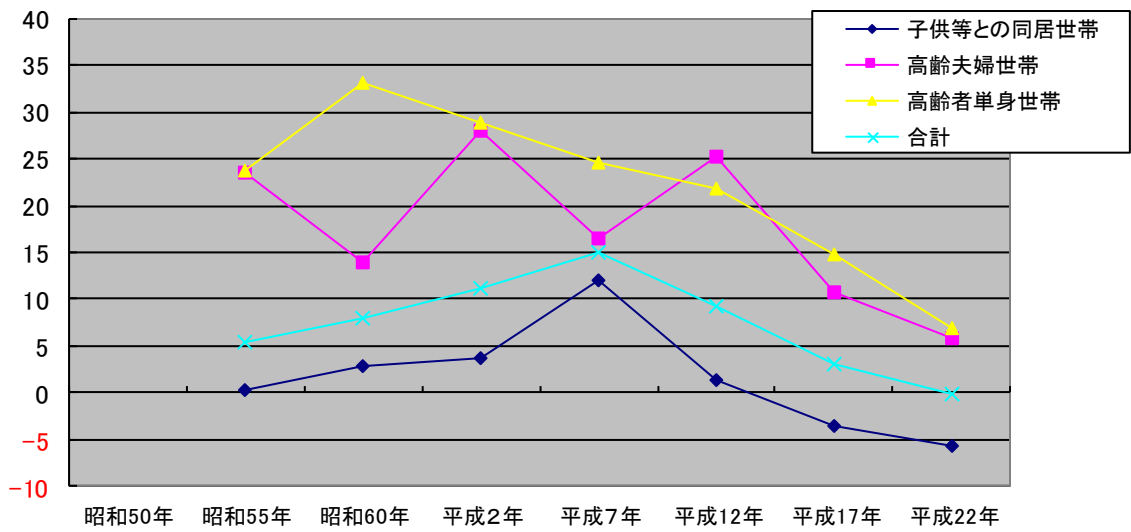


図20 65歳以上親族のいる一般世帯数伸び率の推移



#### 4-4 住居

住宅の所有関係別割合は、持ち家81.4%、公営・公団・公社の借家7.1%、民営の借家8.4%、給与住宅2.4%、間借り0.6%であり、全国平均、県平均と比べ持ち家に住む世帯の割合が高く、民営の借家の割合が低い。

住宅の建て方別割合は、一戸建87.1%、長屋建3.3%、共同住宅8.0%、その他0.2%で、県平均、全国平均と比較して、一戸建ての割合が高く、共同住宅の割合が低い。

図21 住宅の所有の関係別割合

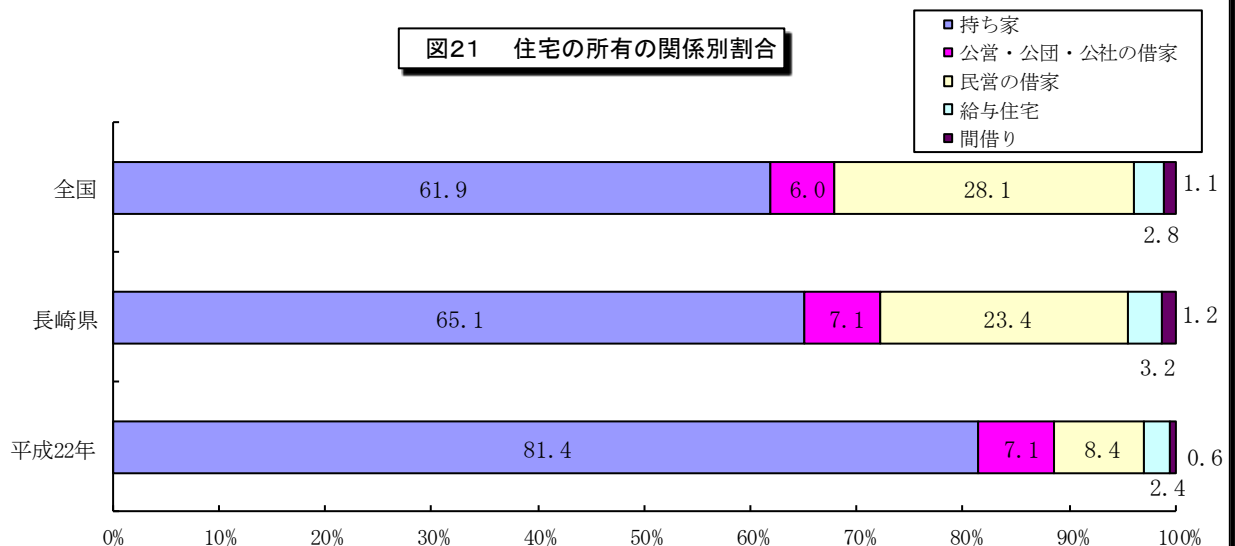
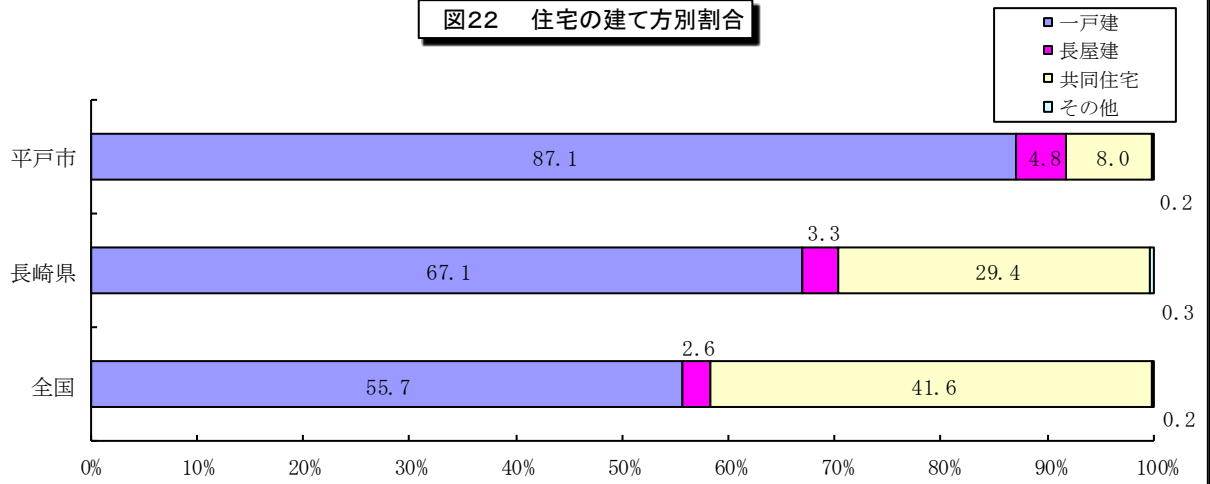


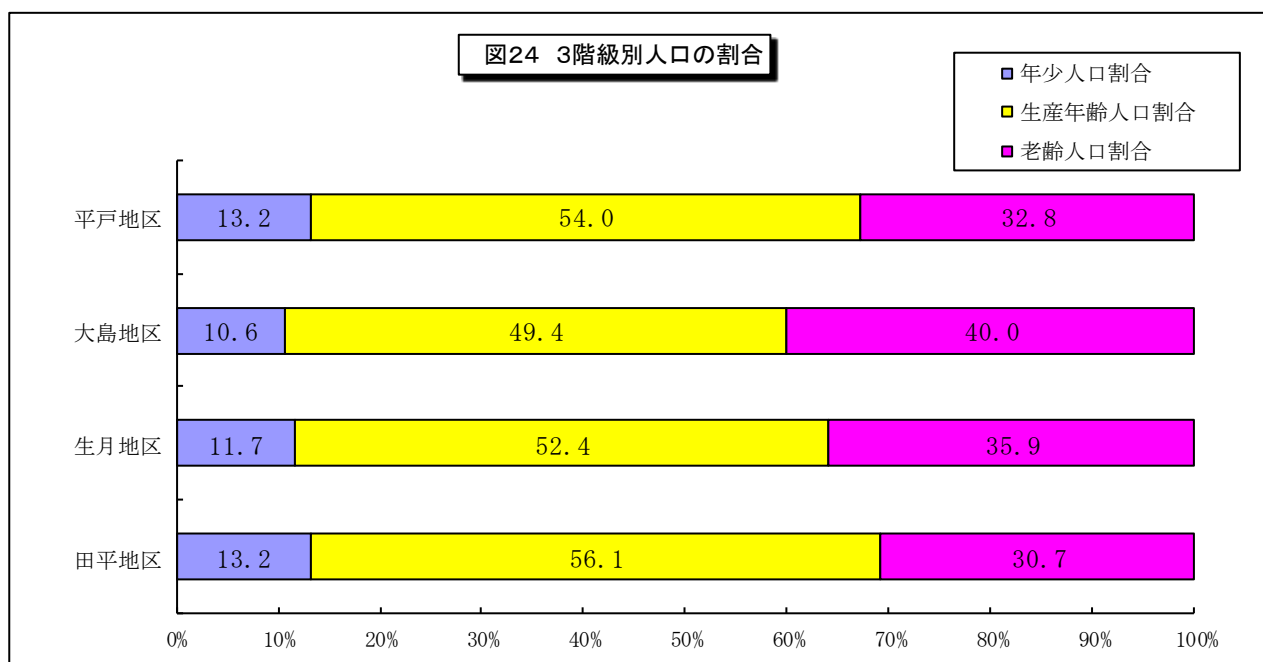
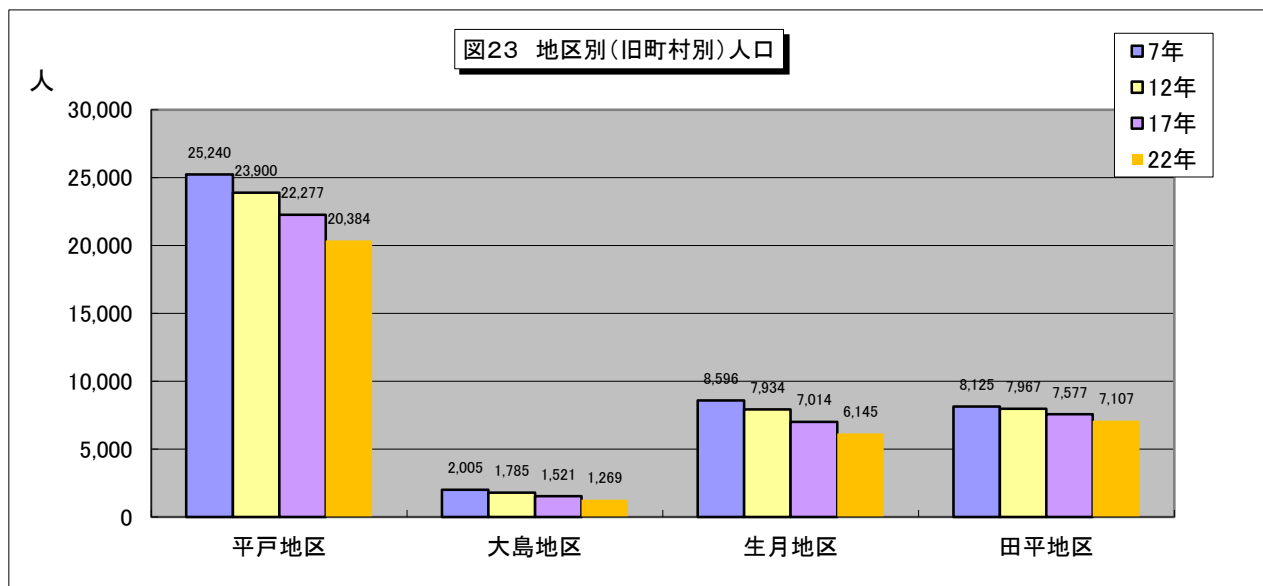
図22 住宅の建て方別割合



## 5. 地区別（旧市町村別）の状況

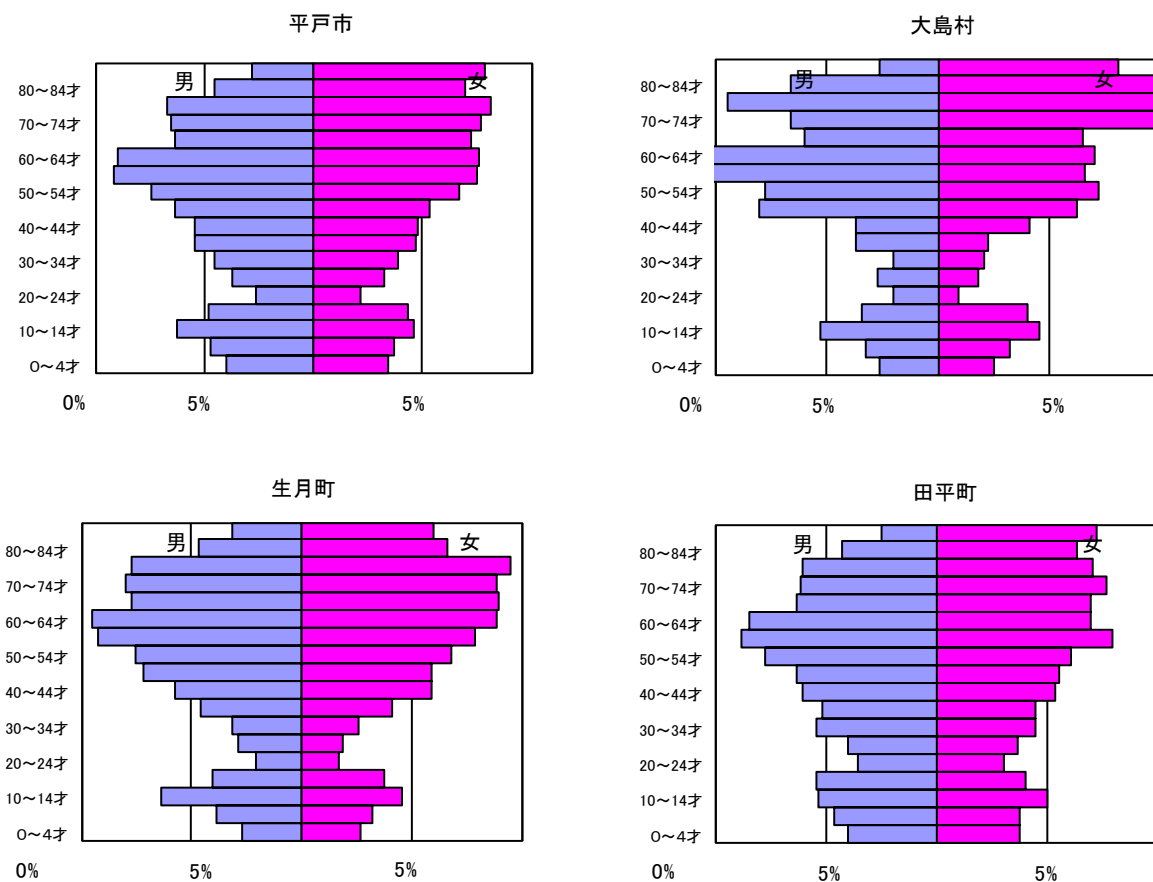
### 5-1 地区別の人口

- 地区別の人口は、平戸地区が 20,384 人で最も多く、次いで田平地区（7,107 人）生月地区（6,145 人）、大島地区（1,269 人）となっている。
- 年少（0～14 歳）人口割合は、平戸地区（13.2%）と田平地区（13.2%）に、生月地区（11.7%）が続き、大島地区（10.6%）が最も低くなっている。
- 生産年齢（15～64 歳）人口割合は、田平地区（56.1%）が最も高く、平戸地区（54.0%）、生月地区（52.4%）と続き、大島地区（49.4%）が最も低くなっている。
- 老齢（65 歳以上）人口割合は、大島地区（40.0%）で最も高く、生月地区（35.9%）、平戸地区（32.8%）と続き、田平地区（30.7%）が最も低くなっている。

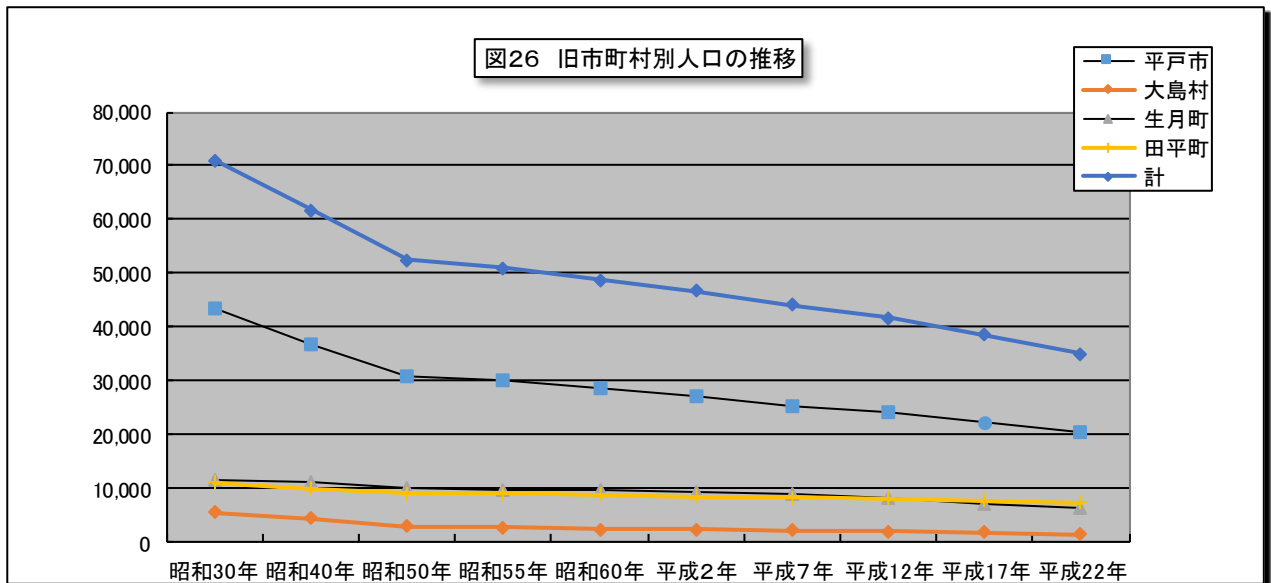


各地区（旧市町村別）の年齢、男女別人口を見ると、どの市町村もひょうたん型となっているが、特に大島地区の増減が激しく、人口全体に占める 20 歳代の男女人口の割合が低く、60～74 才人口の割合が高い。

図25 地区別5歳階級・男女別人口



- 各地区（旧市町村別）の人口の推移を見ると、平成 22 年国勢調査で総数 34,905 人となっており、その内平戸地区の人口が全体の 58.4%を占めている。
- 各地区とも調査毎に人口の減少は著しいものがあるが、特に大島村の人口の減少は大きく、昭和 30 年から平成 22 年の人口減少率は、76.5%となっており、次いで平戸市の 52.9%、生月町の 46.5、田平町の 34.6%となっている。



5-2 地区別の産業

- ・ 平戸地区の産業別人口割合は平戸市全体のグラフとほぼ同じで、第3次産業（59.8%）が最も高く、産業別には「サービス業」、「卸売・小売業」の割合が高い。
- ・ 大島地区の産業別人口割合は、第1次産業（43.1%）と第3次産業（45.1%）がほぼ同じ割合で、第2次産業（11.2%）が少なく、産業別には「サービス業」、「農業」の割合が高い。
- ・ 生月地区の産業別人口割合は、第3次産業（62.1%）が最も高く、産業別には「サービス業」の割合が高い。
- ・ 田平地区の産業別人口割合は、第3次産業（62.1%）が最も高く、他地区と比べても一番高い割合である。また、第2次産業（22.7%）も他地区と比べ高い割合を占め、第1次産業（14.6%）が低い。産業別には「サービス業」の割合が高い。
- ・ 従業上の地位別割合でみると、どの地区も雇用者が多いが、大島地区は他地区に比べ自営業主と家族従業者の割合が高い。

